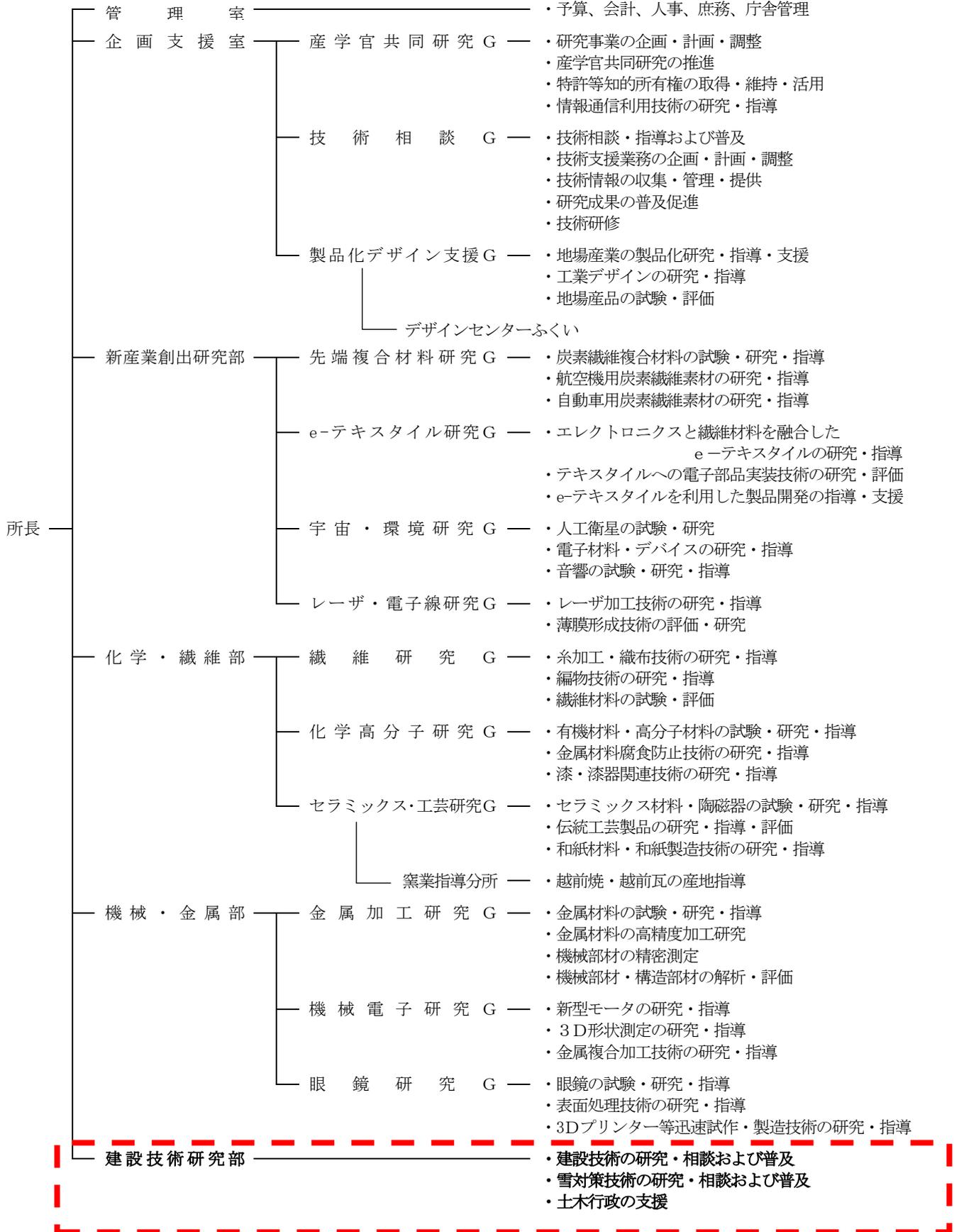


<参考資料>

1 県工業技術センターの組織と業務

建設技術研究部では、①建設技術の研究・相談および普及、②雪対策技術の研究・相談および普及、③土木行政の支援の業務を実施している。



2 県工業技術センター建設技術研究部の沿革

昭和40年：「土木工事材料試験所」として土木部監理課内（福井市松本）に発足
＜県発注工事使用の材料検査が中心＞

昭和48年：「県工事材料試験所」として福井市春日に新築移転

昭和53年：「県建設技術センター」に改称
＜土木技術の専門研修業務の開始＞

昭和63年：「県雪対策技術センター」を併設
＜技術開発等の研究を開始＞

平成7年：上記2センターを統合し、「県雪対策・建設技術研究所」に再編
＜技術開発等の研究を本格化＞

平成25年：「県建設技術研究センター」に改称

平成29年：県工業技術センターに統合され、建設技術研究部となる

3 平成29年度から実施の「炭素繊維を用いた融雪・凍結防止技術の開発」について

＜研究概要＞

冬期の県内の道路空間では、歩道除雪の拡充および消融雪設備の整備が行われているが、歩行者の路面凍結による転倒事故や歩行者対自動車の交通事故の危険性は解消できておらず、安全・安心が確保できていない。これまで、路面の凍結防止に対しては、電熱ヒータの敷設（ロードヒーティング）などで対策を行ってきたが、設置に多大な労力・時間・コストがかかることや、維持管理に過大な費用を要するなどの問題があった。

一方、炭素繊維技術は、県の地場産業である繊維を活用した技術であり、県工業技術センターでは開繊技術を主軸にした研究開発を進めている。

そこで、統合に伴い、県工業技術センターが保有している炭素繊維技術を活用し、炭素繊維を用いた安価で施工が容易な融雪・凍結防止技術の開発を行ない、道路利用者の安全・安心の確保および豊かな道路環境を創造・継承する。

＜研究概要図＞

